

事業名称	奈良国立博物館を中核とした奈良公園クラスター形成事業		
実行委員会	奈良公園文化クラスター準備実行委員会		
中核館	奈良国立博物館		
	住所	〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 50 番地	
	TEL	0742-22-4478	FAX 0742-26-7218
	ホームページ	https://www.narahaku.go.jp/	
構成団体	奈良県立美術館		
事業開始時点の課題分析	<p>日本ではじめて国家の礎が形成され、歴史と文化の豊かな蓄積を誇る「はじまりの地」～奈良。本年、世界遺産登録 20 周年を迎える「古都奈良の文化財」のコアゾーンとなる「奈良公園」には、貴重な歴史的文化遺産を包蔵する東大寺、興福寺、春日大社、収蔵・保存を目的とした国立博物館、正倉院、そしてこれら奈良の歴史文化の文化的体系を展示する奈良県立美術館が集積しています。</p> <p>さらに、これら歴史文化の源ともいえる平城宮跡が今年 3 月 24 日に博物館機能を備えた新たな歴史公園として開園したところであり、悠久の歴史と豊かな緑の自然美が調和した世界に比類なきエリアが形成された。</p> <p>他方、これらわが国を代表する社寺等の文化遺産や文化施設が集積しながら、その運営主体が国、地方公共団体、社寺等の異なる性格を持つことから、相互が連携しながら一体的な取組みを進めていく環境が十分に整備されていないのが現状である。同時に、年間観光客数 4,407 万人（平成 28 年奈良県観光客動態調査報告書）に比して宿泊客数 273 万人（平成 28 年奈良県宿泊統計調査）という結果が示す通り、宿泊施設の客室数が少ないという奈良県における観光政策の課題も顕在化している。このことから、関係者の一体的な取組みによる国内外観光客の回遊性や滞留性の向上に伴う滞在型文化観光政策をいかに促進していくかが、喫緊の課題となっている。</p>		
事業目的	<p>昨年末に発表された国の「文化経済戦略」では、歴史や文化資源を活用した経済活性化（文化 GDP の拡大）を目指し、文化経済活動を通じた地域の活性化・社会包摂等の実現を推進していくとしている。また、県の「奈良県文化振興大綱」では、「歴史と芸術が息づく心豊かな文化の都・奈良県」を目指し、地域住民、芸術団体、社寺等と連携して、奈良県の歴史や文化の特色を活かした文化振興施策を力強く推進するとしている。</p> <p>世界遺産登録 20 周年を迎える平成 30 年を、古都奈良の魅力の世界発信と都市ブランドの確立を目指す大きな機会と捉え、平成 32 年の東京五輪をターゲットイヤーとし、2020 以後の 2 年間でクラスター文化レガシーとして、平成 34 年度までの 5 ヶ年計画を推進する。具体的には、美術館・博物館がもつ専門的な機能を生かしながら、奈良公園や平城宮跡歴史公園が有する国際的なポテンシャルを持つ文化資源を活用し、これらを面的・一体的に整備・発展させ地域経済の好循環を生み出す。国、地方公共団体、社寺等が運営する美術館・博物館を中核としながら地域のソーシャルキャピタルを蓄積し、未来志向型でその魅力を内外に発信し、文化財の着実な継承とさらなる発展を目指し、社会的・経済的な価値を創出していくことを目的とする。</p>		

事業概要	<p>奈良国立博物館及び奈良公園周辺社寺等への集客増加を図り、奈良に存する文化財の魅力発信の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 奈良国立博物館と周辺社寺をつなぐ共通入館事業 奈良公園内に集積する奈良国立博物館、春日大社、東大寺の共通入館事業の実施。 2. なら国際映画祭と奈良県音楽芸術協会との共催によるアート・音楽の祭典 観光シーズンでもある9月及び3月に、なら国際映画祭や奈良県音楽芸術協会との共催によるアート・音楽のフェスを実施。 3. なら瑠璃絵との共催による幻想的な空間創出事業 瑠璃絵の期間に合わせ、なら瑠璃絵と共催で光の演出を実施。 4. 美術館・博物館をつなぐ安らぎ回廊事業 奈良春日野国際フォーラム薨での花の展覧会や、吉城園、依水園、春日大社萬葉植物園、平城宮跡歴史公園などの植栽を巡る周遊ルートの提示。 5. 奈良の文化のルーツを学ぶ事業 社寺ゆかりの伝統芸能等の上演等を実施。
区分	<p>(1) 地域の歴史、地域の有形無形の文化財との連携、地域の人材交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 地域の文化財の魅力発信 □イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実 □ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化 ■エ 専門人材の育成・確保 <p>(2) 地域の文化施設等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施 ■イ 美術館・歴史博物館クラスター（集積地）としての広報活動
実施項目 ・ 実施体系	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の歴史、文化財の魅力発信のための取組 <ol style="list-style-type: none"> (1) 魅力向上のための関連行事の開催 <ol style="list-style-type: none"> ①春日大社薪能 ②共通入館券作成（奈良国立博物館、春日大社国宝殿） ③共通入館券作成（奈良国立博物館、東大寺ミュージアム） ④なら国際映画祭アートイベント ⑤なら国際映画祭インターナショナルコンペ ⑥星空上映会 ⑦春日大社映画上映会 ⑧興福寺音楽会 ⑨平城宮ゆかり音楽祭 (2) 専門人材の活用・育成 <ol style="list-style-type: none"> ①コーディネーターの起用 2. ミュージアムゾーンの形成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域の文化施設との連携による一体的な企画の実施 <ol style="list-style-type: none"> ①瑠璃絵による光の演出 ②奈良公園安らぎ回廊 (2) クラスターとしての広報活動 <ol style="list-style-type: none"> ①国内に向けた広報 ②海外に向けた広報

今年度の奈良公園文化クラスター事業については、来年度本格的に展開するためのプレ的な位置づけであり、エリアも拡大するため、個別の集計は実施せず、本事業の周知に努めた。

奈良公園安らぎ回廊事業での来場者に対してアンケートを実施し、85%が本事業に対して「満足」との回答であった。

また、奈良公園周辺でのイベント事業との共催では、前回は上回る来場者があり、本事業実施により、奈良国立博物館を中核とした施設等への来場者の増加に寄与した。

初開催の事業についても、当初想定していた来場者数を超える事業が多くあった。

今年度事業については、経済効果の検証にはいたっていないが、アンケート結果より半数近くが県外からの来場者であり、事業実施における交通・旅行事業者などへの経済効果としては高いものが生まれているものとする。

1 (1) について

①について、1,500人を来場者数目標としていたが、1,606人の来場であり、目標を上回った。

②及び③について、前回開催に比べ、両事業共に2,000人程度来場者数が増加した。

④及び⑤について、④については、目標を大幅に上回る来場者数となり、3,000人となった。

⑤について、初開催であり、369人の来場者となり、当日の会場は満員となった。

⑥について、492人の来場者数となり、前回実施から約5倍の人数となった。

⑦について、192人の来場者数となり、前回実施から約6倍の人数となった。

⑧について、1,500人を目標とし、1,854人の来場者数となった。

⑨について、予定会場であった施設側の都合により、550人の来場者数となった。

2 (1) について

①について、本事業会場の来場者数は、6,841人であり、なら瑠璃絵全体で見ると412,000人の来場者となり、前回実施の際は、369,000人であったため、本事業実施の効果はあったと考える。

②について、来場者数は、12,617人であった。

実施後の
成果・効果等